

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	GreenFeel上本町		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 21日 ~ 令和8年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26 (回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 21日 ~ 令和8年 2月 14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚運動機能の向上・発語を促すレッスンから、ひらがな・計算練習まで、利用者の年齢や成長に応じて就学準備に力を入れている。	ボーンホルドの知育玩具、リトミック、フラッシュカードを通して遊びの中から感覚・運動・コミュニケーションの取り方を育んでいる。	指導員、全員がそれぞれの支援に専門的に関わられるよう研修や講習を受け、スキル習得を目指す。
2	小集団・個別支援を希望や特性によって支援を行っている。	集団活動の中で集中が難しい場合には別室で落ち着いて活動できるように配慮している。	別室活動の時間割を設け、公平に利用できる環境作りを検討する。
3	有資格者を配置して専門的な指導を行っている。	保育士や専門分野に特化した職員を配置し、専門的な支援を行っている。	支援記録を共有し、すべての職員が等しく利用者の状況や変化を理解できるように徹底する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員の都合でキャンセル待ちになり、希望に添えないときがある。	利用者の利用予定の変動がある。 利用人数定員に達している日が多い。	利用人数、利用回数を調整する。
2	保護者と日々の様子などをすぐに直接、連携が取れない時がある。	送迎時、必ずしも事業所の児童指導員が添乗するわけではないため、保護者と直接話をする機会が少ない。	電話やSNS、記録物などを通して療育中の様子や変化をお伝えしていく。
3	利用者によっては落ち着く環境を続けて提供することが難しい。	利用者によっては、視覚的に興味の惹く玩具があると活動の疎外になる時がある。	別室やパーテーションを設け、集中できる環境を作る等、環境作りをより整える。